第三者審査報告書、今後の展望

KPMG

「JR東日本グループ　社会環境報告書2005」に対する第三者審査報告書

平成17年7月22日

東日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長　大　塚　陸　毅殿

あずさサスティナビリティ株式会社
（あずさ監査法人グループ）

代表取締役　中村義人

1．審査の目的及び範囲

当社は、東日本旅客鉄道株式会社（以下、会社という）が作成した「JR東日本グループ社会環境報告書2005」（以下、「社会環境報告書」という）について審査を行った。審査の目的は、「社会環境報告書」に記載されている平成16年4月1日から平成17年3月31日までを対象とした環境パフォーマンス指標及び環境会計指標（以下、指標という）が、会社の定める基準に従い、重要な点において、合理的に把握、集計、開示されているかについて結論を表明することである。「社会環境報告書」の作成責任は会社の経営者にあり、当社の責任は独立した立場から「社会環境報告書」の信頼性に関する結論を表明することにある。

2．審査手続

当社の実施した主な審査手続は以下のとおりである。

- 「社会環境報告書」の作成開示方針について質問
- 指標に関して会社の定める基準を検討
- 指標の把握方法及び集計フローについて質問し、内部統制の整備・運用状況を評価
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているか、原始証憑とのサンプリングによる照合等により確認
- 一部サイトに対する現場往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

3．審査の結論

審査の結論を次のとおり表明する。

「社会環境報告書」に記載されている指標は、会社の定める基準に従い、合理的に把握、集計、開示されたことにおいて、変更すべき重要な事項は認められなかった。

あずさサスティナビリティ株式会社
マネジャー／
公認会計士
矢尾 眞穂 氏

「社会環境報告書２００５」では、「グループ理念」の実現に向けた２００８年までの到達目標である新中期経営構想『ニューフロンティア２００８』をトップメッセージの次に掲載されました。この事は、社会的側面も含めた中期目標の公表として評価されるものと考えます。

さらに安全については、ハイライト編の「究極の安全をめざして」にて、ＪＲ東日本の安全に対する考え方を中期計画も含めて説明されています。

また、環境保全活動においては、さらなる改善をめざす２００８年度目標を新たに設定しているほか、グループ全体としての目標も新たに設定するなど、ＪＲ東日本グループ一丸となって取り組む姿勢が示されています。

これらの記載から、社会環境報告書を、単に過去から現在に関する報告だけでなく、将来に向けた企業の姿勢を示すものとして考えていることが感じられました。

なお、環境への取り組みについては環境会計が開示されていますが、今後は重要な柱である安全についても、どのような目標のもとにどのような活動を行い、コストをかけているかといった点について、さらなる情報開示をご検討されてはいかがでしょうか。

今後の展望

2005年度を達成年度とする環境目標11項目のうち、2003年度の実績で6項目を達成、未達成の項目も2005年度までに達成できる見通しが立ったことを受け、新たにJR東日本グループとしての目標も加えた2008年度を達成年度とする環境目標を設定しました。グループ一体となった環境経営をさらに推進し、目標の達成に向けて取り組みを進めます。

地球環境との共存を図るうえで、環境負荷の小さい鉄道は大きな役割を果たせるものと考えています。ただし、そのためには、安全で安定した輸送サービスの提供と、新たな価値創造により地域社会の発展の一翼を担うことで、グループの社会的責任を果たしていくことも重要です。

今後もJR東日本グループは、持続可能な社会の実現に向け社会環境活動の推進に努めてまいります。

取締役
経営企画部長
大和田 徹